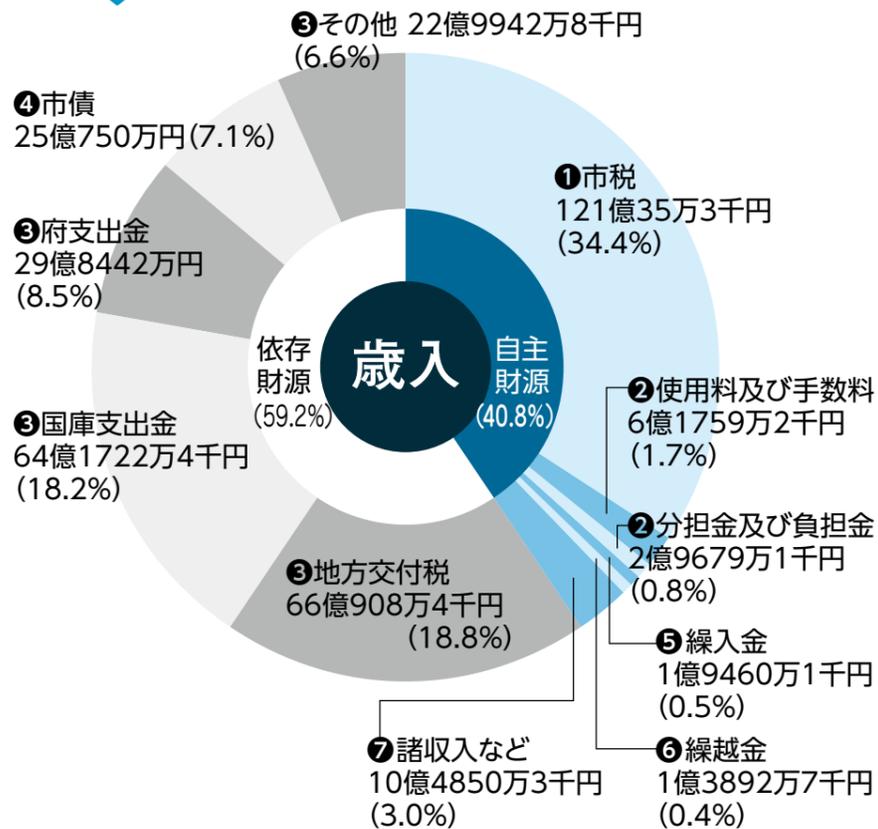


# 歳入 352億 1,442万 3千円



## ●基金・市債の状況(令和元年度末) (単位:千円)

種類	金額	主な使い道
<b>基金</b>	<b>11,713,120</b>	
財政調整基金	2,446,635	財源不足への対応
普通建設事業基金	1,216,081	一般建設事業
減債基金	486,674	借金の返済
その他特定目的基金	7,386,835	公共施設維持改修基金など
水道事業基金	176,895	用地取得・施設整備など
<b>市債</b>	<b>58,818,436</b>	
臨時財政対策債等	19,239,086	財源不足への対応など
通常の建設地方債	11,636,449	公共事業等債など
水道事業債	4,492,906	建設改良事業費
下水道事業債	23,449,995	建設改良事業費など

※市民1人当たりの基金の額は112,593円、市債の額は565,393円です(令和2年3月31日現在の人口:104,031人)。

公共施設の老朽化などに備え基金(貯金)の積立も行っていきます



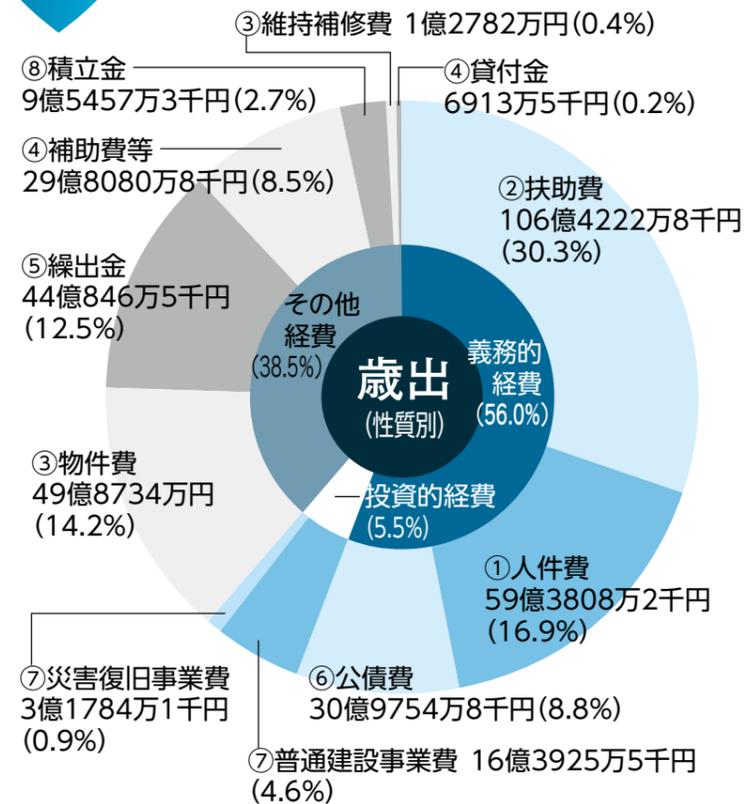
経常的な支出が経常的に入るお金に対して、どれくらいの割合かを表す指標を「経常収支比率」といい、前年度から0.7ポイント改善し、99.2%となりました。府内都市平均96.7%を2.5ポイント上回っており、依然として高い水準です。そこで、市民のみなさんの税金などがどのように使われたのか、令和元年度一般会計の財政状況を月収30万円の家庭の家計簿に例えてお知らせします。

### 問い合わせ 財政課

# 令和元年度の決算報告

令和元年度の決算が市議会で認定されました。翌年度へ繰り越す財源を差し引いた実質的な収支は1303万7千円で、黒字決算となりました。

# 歳出 351億 6,309万 5千円



月収が30万円の  
家計簿に例えると...

収入	
①給与収入	103,100円
②パート収入	7,800円
③親族からの援助	156,000円
④金融機関からの借入	21,400円
⑤貯金の取り崩し	1,600円
⑥前月からの繰越金	1,200円
⑦雑収入	8,900円
収入合計	<b>A 300,000円</b>

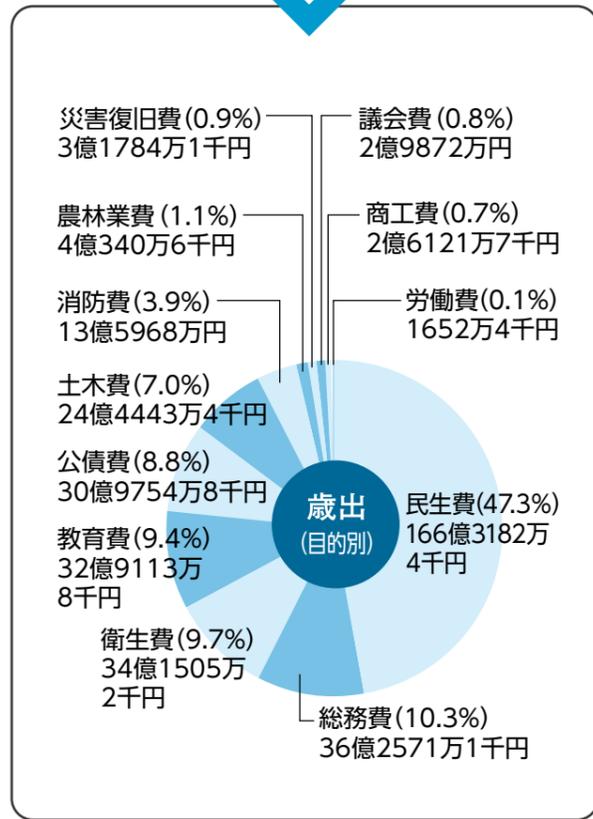
支出	
①食費	50,600円
②医療費・教育費	90,700円
③光熱水費・日用品・修理	43,600円
④自治会などの会費	26,000円
⑤子どもへの仕送り	37,600円
⑥ローンの返済	26,400円
⑦家の増改築	16,700円
⑧貯金	8,100円
支出合計	<b>B 299,700円</b>

余ったお金  $A - B = 300円$

貯金残高 1,197,400円  
ローン残高 6,013,100円

※家計簿内の番号は円グラフの番号と対比しており、同じ比率で家計簿の数値を算出しています。

※貯金残高、ローン残高については、年収360万円とした場合



●表1 一般会計の執行状況 (単位:千円、%)

費目	予算現額	収入済額(執行率)	費目	予算現額	支出済額(執行率)
歳入	49,310,327	28,634,361 (58.1)	歳出	49,310,327	24,638,554 (50.0)
国庫支出金	19,180,927	14,223,860 (74.2)	民生費	17,406,738	7,129,417 (41.0)
市税	12,019,093	7,082,242 (58.9)	総務費	14,998,532	11,590,373 (77.3)
地方交付税	6,146,770	4,950,575 (80.5)	衛生費	3,907,072	1,227,066 (31.4)
府支出金	3,114,336	385,998 (12.4)	教育費	3,727,472	1,142,124 (30.6)
市債	2,766,800	0 ( 0.0)	公債費	3,060,468	1,472,137 (48.1)
繰入金	1,287,741	44,674 ( 3.5)	土木費	2,615,043	944,449 (36.1)
使用料及び手数料	639,390	222,842 (34.9)	商工費	1,496,441	315,155 (21.1)
分担金及び負担金	230,752	73,629 (31.9)	消防費	1,273,101	527,934 (41.5)
その他	3,924,518	1,650,541 (42.1)	その他	825,460	289,899 (35.1)



公表

令和2年度上半期  
財政事情の公表

今年4月から9月までの予算の執行状況と、9月30日現在の基金・市債・財産(土地・建物)の状況についてお知らせします。

圃財政課

●表2 特別会計の執行状況 (単位:千円、%)

会計名	歳入		歳出	
	予算現額	収入済額(執行率)	予算現額	支出済額(執行率)
特別会計	26,341,881	10,738,879 (40.8)	26,341,881	9,972,441 (37.9)
国民健康保険事業	13,035,441	4,988,535 (38.3)	13,035,441	4,928,577 (37.8)
土地取得	119,333	34,568 (29.0)	119,333	32,324 (27.1)
部落有財産	3,079	2,155 (70.0)	3,079	2,155 (70.0)
介護保険	10,935,900	4,848,010 (44.3)	10,935,900	4,230,102 (38.7)
後期高齢者医療	2,248,128	865,611 (38.5)	2,248,128	779,283 (34.7)

●表3 公営企業会計の執行状況 (単位:千円、%)

会計名	収入		支出	
	予算現額	収入済額(執行率)	予算現額	支出済額(執行率)
水道事業会計				
収益的収支	2,464,896	1,140,341 (46.3)	2,408,890	1,001,001 (41.6)
資本的収支	501,121	- ( 0.0)	1,197,025	425,711 (35.6)
下水道事業会計				
収益的収支	3,243,576	1,241,285 (38.3)	3,123,543	1,434,152 (45.9)
資本的収支	1,950,761	65,170 ( 3.3)	3,140,304	1,113,716 (35.5)

●表4 基金・市債の状況 (単位:千円)

種類	金額	主な使い道
基金	11,673,091	
財政調整基金	2,446,635	財源不足への対応
普通建設事業基金	1,216,081	一般建設事業
減債基金	486,675	借金の返済
その他特定目的基金	7,346,805	公共施設維持改修基金など
水道事業基金	176,895	用地取得・施設整備など
市債	56,478,333	
臨時財政対策債等	18,390,177	財源不足への対応など
通常の建設地方債	11,153,724	公共事業等債など
水道事業債	4,334,754	建設改良事業費
下水道事業債	22,599,678	建設改良事業費など

※令和2年9月30日現在の人口は103,552人、世帯数は47,530世帯です。

一般会計・特別会計と公営企業会計の状況

令和2年度一般会計予算は362億9836万8千円(繰越予算を含む)でスタートしましたが、130億1195万9千円を増額補正し、493億1032万7千円になりました。

予算現額に対する執行状況は表1のとおりです。市民1人当たりの市税負担額(調定額)は11万1048円、1世帯当たりでは24万1935円です。

また、令和2年度は一般会計と分けて経理する必要のある5つの特別会計と、公営企業として水道・下水道事業会計を設けています。これらの執行状況は表2、表3のとおりです。

基金・市債・財産の状況

市の貯金である基金、市の借金である市債の状況は表4のとおりです。市民1人当たりの基金の額は11万2727円、市債の額は54万5410円です。なお、一時的な現金の不足には、一般会計と各特別会計の会計相互間での現金運用や財政調整基金などからの一時的な借り入れで対応しています。また、市の財産(土地・建物)は、土地が291万8736㎡、建物が26万837㎡となっています。

●特別会計の決算 (単位:千円)

会計名	歳入	歳出
特別会計	25,400,819	25,171,967
国民健康保険事業	12,852,056	12,851,304
土地取得	89,684	89,684
部落有財産	7,579	7,579
介護保険	10,346,380	10,175,992
後期高齢者医療	2,105,120	2,047,408

●公営企業会計の決算 (単位:千円)

会計名	収入	支出
水道事業会計		
収益的収支	2,585,495	2,403,790
資本的収支	305,251	741,400
下水道事業会計		
収益的収支	3,271,850	3,050,549
資本的収支	1,871,194	2,868,869

※資本的収支の不足額は損益勘定留保資金などの補てん財源で補てんしました。

●健全化判断比率

指標	河内長野市	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率※1	(赤字なし)	12.41%	20.00%
連結実質赤字比率※2	(赤字なし)	17.41%	30.00%
実質公債費比率※3	2.3%	25.0%	35.0%
将来負担比率※4	(将来負担なし)	350.0%	-

※1 普通会計の赤字から財政運営の深刻度をみる比率。※2 すべての会計の赤字から財政運営の深刻度をみる比率。※3 借金の返済額などの大きさから資金繰りの危険度をみる比率。※4 市が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度をみる比率。※5 企業会計の資金不足割合から経営状況の深刻度をみる比率。

複式簿記・発生主義会計による財務書類を作成

企業などが用いる複式簿記・発生主義会計による財務書類(右図の貸借対照表など)を作成しています。このことにより、減価償却費(資産価値の減少分)など、従来では見えにくかったコストも把握できるようになり、財政の透明性を高めています。

●貸借対照表(バランスシート)

(令和2年3月31日現在・一般会計)

貸借対照表は、どのような資産を保有しているか、その資産がどのような財源で賄われているかを示した表です。※下記( )内は前年度比較。

■資産	1,449億6千万円 (△6億7千万円)	■負債	354億円 (△7億1千万円)
市が保有している土地や建物、債務返済の財源などの総額		将来の世代が負担する借入金(市債)などで、返済が必要な債務の総額	
■公共資産	1,344億9千万円 (△13億3千万円)	■純資産	1,095億6千万円 (+4千万円)
道路、公園、学校など		現在までの世代がすでに負担し、将来の世代が返済する必要のない正味価値の総額	
■投資など	74億6千万円 (+6億9千万円)		
基金、積立金、出資金など			
■流動資産	30億1千万円 (+3千万円)		
現金・預金、未収金など			
合計	1,449億6千万円 (△6億7千万円)	合計	1,449億6千万円 (△6億7千万円)

今後、人口減少などによる市税の減収が予想される一方で、高齢化などによる社会保障関係経費の増加、公共施設の老朽化対策関係経費の増加が見込まれています。厳しい財政状況の中、限られた財源の範囲内で施策・事業の選択と集中を行い、安定した財政基盤の確立が必要です。

面では、現場視点による創意工夫を行い、庁内・民間連携を図りながら、新たな市民ニーズに対応した施策・事業を構築すること、コロナ禍においても市の発展に向けたまちづくりを展開してまいります。

なお、財政が健全に運営されているかの指標を表す財政健全化判断比率(下表)では、いずれの指標も早期健全化基準を下回っています。

●資金不足比率※5

公営企業会計	河内長野市	経営健全化基準
水道事業会計	(資金不足なし)	20.0%
下水道事業会計	(資金不足なし)	

比率が生じない場合は「-」で表示